

本来白菊は三人乗りであるが、機数も少なく訓練の効率を上げるため六人も詰め込んで乗っていた。犠牲者は十一人となった。相当広範囲に散らばっていた二機の残骸や、犠牲者等を地域住民が一夜にして片付けたという。

昭和六十一年十月十四日、包末部落・松本部落各有志が相談の上、寄付金を募り二箇所に慰霊碑を建立した。海軍航空隊の制服を着た像も最近有志によって建てられている。

岩村の歴史シリーズ（V）を書き上げるに当たって、安松一幸氏から色々ご教授頂いたことを付記してこの項を終わります。藤本眞事さん寄稿

八十八ヶ所巡り

遍路とは歩くことなり。人生を見つめなおす旅なり。と聞きますが私はまだそこまでは至ってはいない。初めての遍路は三年前、供養と祈願を目的にバス遍路で巡りました。

初回は遍路の意味も分からないまま、札所での作法に精一杯で一日十ヶ寺を回るというハードなスケジュールで、ゆつくりと寺仏などを鑑賞する間などなく、ただ時間におわれ疲れきつ

て帰ったことでした。その夜、私の枕元にお大師様がすくっと立っている様な夢を見ました。翌日からその疲れも忘れ八十八ヶ所巡りのとりこになり、月一度の遍路に行く日を待ちかねて般若心経を唱えながら、八十七ヶ所をまわり、いよいよ最後の満願の寺にたどり着いた時は、やり遂げたという達成感と感動で大声で叫びたい気分でした。その八十八番の寺で、百回以上も回っているという方に出会い、今日までの苦労などをお話しすると、「いやいやここで最後ではないですよ。これから始まりですよ。」との言葉をいただいて、この旅でのご縁を気に、再び遍路の旅を誓ったことでした。



そして今回地元の遍路の仲間の誘いで頂き、念願を叶えていただいたお礼参りで。今回は途中からの参加です。四十九番の今治の町にかた



岩村ふれあい祭りにて

し汁だけでつくったというすまし汁等、十種類の料理は上品で身体にやさしいご馳走でした。かつて弘法大師も歩いたであろうこの道を、せめて今日一日は心穏やかにのんびりと、過ごしなから自分をリフレッシュし、そして納経帳にそれぞれの思いをきざみつつ・・・。

七月吉日

市川絹子さん寄稿

岩村句会

すべて有る長橋の脚大昼寝

池 禎章

子猫の目親猫の目にある薄暑

岡田寿子

母の歩へチンカラリンと梅雨明けける

北岡高子

先客はこおろぎコイン精米所

小松ふみ

絵金の絵仕立職人何か縫う

福井博子

何回も探し物です黒揚羽

山岡みよ

茗荷咲く庭に大きく字を書く児

和田ひでみ

まっている札所巡りをしました。前回に比べ今回の巡りは時間に余裕があり、各寺でいろいろの発見とお接待は、この暑い時期に本当に感謝しました。そして楽しみはやはり昼食です。五十八番の仙遊山で精進料理をいただきました。露草、ドクダミ、オオバコ等のテンプラ。昆布の出